

かながわ畜産まめ知識

畜産環境

家畜のふんと尿の量	一日1頭・1羽あたり		県平均飼養頭羽数	1農家一日分は？
	ふん	尿		
〈搾乳牛〉	36～54kg	14～17kg	約30頭	1.8トン
〈肥育豚〉	平均2.1kg	平均3.6kg	約1,100頭	6.3トン
〈採卵鶏〉	平均0.14kg	なし※	約14,800羽	2トン

※尿は尿酸としてふんと一緒に排せつ（ふんの白い部分）

神奈川県畜産農家の経営環境



人口の集中する畜産にとっては不利な条件にありながら、県内畜産農家戸数は、酪農家が全国第17位、養豚農家が同25位、採卵鶏農家が同19位と、全国でも中位にあります（平成21年2月現在）。このため、住宅と隣接して畜産農家があるというのも、本県畜産の特色の一つであり、それぞれの農家が工夫して、畜舎周辺に木や花を植えるなど環境整備に配慮しています。

また、本県の畜産農家は、全国に先駆け、昭和37年頃から家畜ふん尿処理施設の整備に熱心に取り組んできた歴史があり、長年の技術の蓄積があるからこそ、全国中位の畜産農家戸数を維持していると言えます。

神奈川県の家畜ふん尿処理方式

ふん尿は混合して液肥処理すると散布する畑地の面積が広く必要になるため、農地の少ない神奈川県では古くからほとんどの畜産農家で、ふんはたい肥化、尿は浄化処理という方式がとられています。尿は、公共下水道が利用できる場合や、量が少ない場合はおがくず等に吸着させ、たい肥化処理する場合があります。

○家畜ふんの「たい肥化」処理

神奈川県では、かく拌機械つきのハウス（開放型）、送風しながらかく拌羽根の軸が中心で回転する円柱形の施設（密閉型：右写真）、シヨベルローダーなどでふんの山を攪拌する方式（たい肥舎）などにより、主にたい肥化処理が行われています。（その他、乾燥・焼却する方式もあります）畜種や家畜ふんの発生量などをふまえて、それぞれの経営に見合ったタイプを選択します。※詳しくは「[家畜ふんの処理](#)」参照



密閉型発酵機
豚・鶏のふん処理で多い方法

○家畜尿（汚水）の浄化処理

活性汚泥という微生物の働きを利用して汚水を浄化し公共用水域に放流する浄化槽による処理があり、神奈川県内のほとんどの畜産農家（尿処理のない養鶏を除く）が取り入れています。また近年は、市町によって、公共下水道による処理を推進している地域もあります。



回分式浄化槽

※詳しくは「[家畜尿（汚水）の処理](#)」参照

参考「畜産統計」／農林水産省
「家畜ふん尿処理施設・機械選定ガイドブック」／（財）畜産環境整備機構